

南アルプス市立小笠原小学校 第一回自己評価書

令和元年9月2日作成

校長： 上田 直人	記述者・職名： 河村 徳仁・教頭
<p>学校教育目標</p> <p>校 訓「あかるく かしこく たくましく」</p> <p>教育目標「自分を大切にし、他者を大切にする」児童の育成</p> <p>具体目標 (1) 労をいとわず働く子 (2) 自分を明るく表現できる子 (3) 進んで学ぼうとする子 (4) 思いやりがあり、礼儀正しい子 (5) 健康でたくましい子</p>	
<p>本年度の学校経営理念と方針</p> <p>「喜んで登校し、満足して下校できる」明日が待たれる学校の創造</p> <p>①安全・安心な学校づくりの推進 ②教育の不易と流行の見定めと率先垂範による教育の推進 ③研究研修活動を活性化し、自ら学ぶ授業づくりの推進 ④楡形地区小中連携をとおして地域が一体となった教育の推進 ⑤学校評価システムによる学校経営の推進</p> <p>学校経営目標</p> <p>「心を揃えて高め合い磨き合い鍛え合う学校」</p> <p>①心を揃えて高め合う 自らの思いを伝え、聞き、学び、高め合う子 義務教育を見通し教師力の向上を図り学びの質を高める教師</p> <p>②心を揃えて磨き合う 自分を見つめる行動と心を動かす言葉で進んで磨き合う子 相手を思いやる言動を実践し心に寄り添い心を磨く教師</p> <p>③心を揃えて鍛え合う めあてに向かって挑戦しやりぬき鍛え合う子 安全安心の意識を持ち子供たちを鍛える教師</p>	
I 評価方法	
<p>児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。 質問に対する回答選択肢は基本的に4段階になっている。</p> <p>A：とても・よく～している B：だいたい～している C：あまり～していない D：～していない</p> <p>の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・性格・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。</p> <p>そこで、A・B・C・Dの選択肢を点数化し、A=4、B=3、C=2、D=1として集計し、回答者数で割って平均点数をもとめた。平均点数は次のような意味をもつ。</p>	

○全体にプラス評価（A・B）が多ければ、平均点は2.5点以上になり、4点に近づいていく。
○全体にマイナス評価（C・D）が多ければ、平均点は1点に近づいていく。
なお、保護者のアンケートには回答の選択肢として E：わからない があるが、これは点数には含めていない。

Ⅱ 全体評価

- ・児童アンケート・保護者アンケート・教職員アンケート とも昨年度とほぼ同様な傾向を示した。
- ・児童のアンケート結果では、24個の質問項目中、全ての項目で、平均点数が2.5以上のプラス評価となっている。
- ・保護者のアンケート結果では、19個の質問項目中、「ご家庭で一緒に本を読む時間をもうけていますか」を除く18個の項目で、平均点数が2.5以上のプラス評価となっている。
- ・教職員のアンケート結果では、32個の質問項目中、全ての項目で、平均点数が2.5以上のプラス評価となっている。

以上のことから、小笠原小学校の教育活動が保護者の理解と協力を得ながら効果的におこなわれてきていると考えられる。その成果はアンケートの結果のみならず、児童の普段の学習や生活の様子からも見てとれる。

しかし、マイナス評価の項目（一項目）やプラス評価の中でもポイントが低い項目がある。児童、保護者、教職員それぞれの回答について、以下の「Ⅲ 回答者ごとの評価」で考察し、課題を明らかにしていく。

Ⅲ アンケートごとの評価

児童アンケートについて

児童の回答項目中、平均点が2.5を下回っているもの（マイナス評価）はなかった。

今回のアンケート調査では、マイナス評価はなかったが、プラス評価の中でも低いポイントの項目がいくつかある。次の4項目である。

- 13「自主勉強をしていますか」 2.8
- 3「困ったとき相談できる友達はいですか」 3.1
- 9「困ったとき相談できる先生はいですか」 3.1
- 11「考えや感想や意見を発表できますか」 3.1

【考察及び改善策】

13「自主勉強をしていますか」については、全項目中一つだけ2点台であった。宿題など決められた課題については取り組むことはできるが、自主学習に進んで取り組む児童は少ない現状にある。低学年では、自主学習の仕方について丁寧に指導をしたり、毎週末宿題にしたり、習慣化につなげることを考えている。他の学年では、児童が意欲を持って取り組めるような課題の出し方を考えていくことを考えている。また、学年便り等で家庭に協力をお願いし家庭学習週間を有効に活用したり、頑張りやクラスで認め合ったりしながら自主学習の推進を図りたい。

3「困ったとき相談できる友達はいですか」については、困ったときに相談できる友達が増えてくるように、友達を増やす活動を多く取り入れ、子ども同士の心をつなげる学級づくりに努めていきたい。

9「困ったとき相談できる先生はいですか」については、休み時間等に、教師が子どもの話を聞ける時間を作るように努めたり、児童が安心して何でも話せる学級環境を整えたりしたい。

11「考えや感想や意見を発表できますか」については、児童が自信を持って発表できるように、まず考えを

書かせる時間をしっかりとり、発表の機会を多く作る工夫をしたいと考える。また、自分の考えを持ち発表できるように発問を工夫するなど、「主体的・対話的・深い学び」を意識し、児童が意欲的に活動できるように授業改善を行うこと、何を言っても受け入れてもらえる雰囲気づくり（学級づくり）を続けていくようにしたい。

保護者アンケートについて

保護者の回答項目中、マイナス評価の項目は次のものである。

10「ご家庭でいっしょに本を読む時間をもうけていますか」 2. 2

【考察及び改善策】

「家読」に取り組んではいるが、十分に行われていない状況といえる。親も子も忙しく、落ち着いて読書に取り組む時間がない。保護者がじっくり子ども達と向き合う時間を作るには、かなりの余裕（経済的・心的）が必要だと考える。これまでと同様に、朝読書や家庭読書、親子読書を継続的に行い、少しずつでも本好きな子どもを増やしていきたい。学級では、週一回宿題に出して取り組んだりお便り等で時々紹介したりすることが考えられる。

今回のアンケート調査では、マイナス評価はなかったが、プラス評価の中でも低いポイントの項目がいくつかある。次の4項目である。

12「お子さんは、宿題の他にも家庭学習をしていますか」 2. 5

13「お子さんは、困ったことがあったときに、相談にのる友だちがいますか」 2. 5

17「PTA活動に参加していますか」 2. 7

19「お子さんの教育で悩みがありますか」 2. 6

【考察及び改善策】

12「お子さんは、宿題の他にも家庭学習をしていますか」では、家庭で学習に取り組む習慣を身に着けることと学力向上は密接な関係がある。継続することが大切なので家庭学習カードを有効活用し、児童の興味関心のある学習を自主的に行っていくことにつなげていきたい。自主学习（家庭学習）には保護者の協力が不可欠なので、学校の様子を学年便り等で伝えながら保護者と協力して取り組んでいきたい。

13「お子さんは、困ったことがあったときに、相談にのる友だちがいますか」では、児童の項目3「困ったとき相談できる友だちはいますか」は児童の80%が肯定的であるがそれに比べると、68%が肯定的であった。保護者は学校での友達関係がよく分からず、子どもの友達関係に少なからず不安を抱いている様子も浮かがる。昨年度同様に授業の中の関わりや、学級レクなど様々な活動を通して、子ども同士の人間関係づくりをより一層進めていきたい。また、お便り等で子ども達の学校での様子を伝えていきたいと考える。

17「PTA活動に参加していますか」では、今年度もPTAの本会役員さんたちを中心に様々な事業に熱心に取り組んでいただいているが、課題として、授業参観など我が子に直接関わるものは参加するが全体での活動教育（PTA総会や講演会など）への参加人数が少ないことがあげられる。保護者に時間的、経済的余裕がないことも関係しているかもしれない。今後、PTA総会や講演会などに、全員が参加できるような手だてをPTA役員さんの協力を得ながら考えていきたい。

19「お子さんの教育で悩みがありますか」では、悩みが「ある」と答えた保護者が49.1%あった。また、とても悩んでいると答えた保護者が昨年度は3.3%であったが、今年度は6.2%に増えている。このことから、保護者の半数は子どもの教育のことで悩みがあり、大きな悩みを持っている保護者も少なからずいることが分かった。保護者の悩みを解消するためには、まず、その悩みを聞いてあげることが大切である。

本校では養護教諭・特別支援コーディネーターを中心にSC（スクールカウンセラー）に繋いだり、市の担当と連携しながら医療機関に繋いだり、市の子育て支援課と連携したりといったシステムが整っている。これらを活用し保護者の悩みを軽くし、子ども達の健やかな発達につなげていきたい。また、学級においては、普段の何気ない保護者との会話の中で、保護者の悩みを受け止めてあげることも必要だと考える。

教職員アンケートについて

教職員の回答項目中には、マイナス評価の項目はなかった。

平均値2.5を下回る項目はなかったが、以下の項目がプラス評価の中でも低いポイントの項目が以下の3つである。

Ⅲ③「個に配慮した効果的な指導に取り組んでいる」3.3

Ⅲ④「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」3.2

Ⅲ⑧「問題行動の早期発見・早期対応ができています。」3.3

【考察と改善点】

Ⅲ③「個に配慮した効果的な指導に取り組んでいる」については、教職員は何とかしようと頑張っている。しかし、個人指導をする時間がとれない現状にある。授業の中で個別に声をかけていくのはもちろんだが、今行っている放課後の補習も継続して行っていきたい。また、授業の中で十分な個別指導を行えるように、市単教員の増員を要望していきたい。

Ⅲ④「知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力の育成に努めている」については、教材研究をする時間が思うようにとれない現状にある。校内研究で取り組んでいる「主体的・対話的・深い学び」をキーワードに思考場面・交流場面・表現場面を授業の中に意図的に仕組む必要がある。校内研究会で学んだことを実践に繋げていきたいと考える。

Ⅲ⑧「問題行動の早期発見・早期対応ができています。」については、いじめアンケートを年数回実施しいじめの早期発見・早期対応に努めている。平均点数は3.3だが、肯定的な回答は100%であった。

担任が普段の生活の中で気付かないことがあるので、自信を持って「できている」と言い切れなかったのだと考えられる。今後も定期的なアンケートと問題行動を見逃さないように子どもとのコミュニケーションをしっかりととり、子ども達の実態を把握し問題行動の早期発見・早期対応に繋げていきたい。

IV まとめ

アンケート調査の結果から、例年の教育活動の積み重ねにより、本年度の小笠原小学校の教育活動が効果的なものになっていること、児童が充実した学校生活を送っていることが見てとれる。上記のように各アンケートにおいて、プラス評価が多い結果ではあるが、個々の評価を見ていくと、評価の下がったものやマイナス傾向にあるものもあり見逃すことはできない。評価の下がったものやマイナス傾向の項目の改善に向け、前年度までと同様に、継続的な取り組みを実施していきたいと考える。また、1時間の授業の充実は、学校教育の基本であり、「授業が分かる・できる」ことが、子ども達の学校生活をより良いものにしていくことにつながる。校内研究を中心に「主体的・対話的・深い学び」の視点での授業実践を積み重ねていきたい。また、「心をそろえる活動」が定着してきている。更なる高みに向かって全職員で共通理解を持ち協力して取り組んでいきたい。また、支援が必要な児童についても、共通理解のもと全職員で対応していきたい。

今後も、学校だよりや学年だよりなどで学校の様子を保護者や地域に知ってもらい、学校・保護者・地域で協力して子ども達の教育を行っていききたいと考える。